

# 共生の森「子ども塾」開く

## 「間伐」や「工作」賑やかに 秋晴れに親子で楽しみました

中です



改めてノコギリ体験



お母さんに手伝ってもらってギョーコ



カブト虫の幼虫を発見して大騒ぎ



「出来たぞ」とふーっ



「おなかすいたー!」と食欲もりもり

子供たちに森を通して自然に興味や親しみを持ってもらおうと、日遊協主催による「子ども自然塾」が10月25日、埼玉・嵐山町「共生の森」で開かれた。会員家族50人（うち子ども23人）と日遊協関係者、埼玉森林サポータークラブなど計85人が参加した。爽やかな秋晴れに恵まれ、子供たちは間伐体験、工作教室などで楽しい一日を過ごした。「子ども自然塾」は2012年10月以来2回目の開催。このイベントは社会貢献・環境対策委員会が企画し、嵐山町、公益財団法人埼玉県緑化推進機構、埼玉森林サポータークラブが運営協力した。また、東京都・関東支部の男女ボランティア隊員12人が24、25日の2日間出動し、イベント前日の危険箇所チェック、当日の会場運営等で活躍した。

### 「けがをしないように」

午前10時、「共生の森」の生みの親、深谷友尋日遊協相談役（前会長）が「おかげさまで

素晴らしい森ができています。私たちは地球の環境、そして子供

たちがすくすくと育つための環境づくりを考えてやってきました。今日は自然と触れ合って1日を楽しく過ごしてください。でも、どうか無理しないで、けがをしないでください」とあいさつした。

続いて森づくりを指導してきた埼玉森林サポータークラブの梶田力会長が、「共生の森も7年経ってこれだけ立派になりました。でもまだ途中の段階です。森というのは長い時間をかけて作られていきます。きょうは日常を離れて、森の中で木や自然に親しんでください」と述べた。

### ノコギリで「やったね」

家族はヘルメットや軍手を支給され、3グループに分かれて、先ず間伐体験。間伐は森林の木が混み合ってお互いの成長を阻害することを防ぐため、不適当な木を間引くこと。「樹木が適度な間隔を保てば、太陽の光が木の根元や地面にまで届く環境になり、森は豊かに育ちます」と森林サポータークラブのおじさんが子供たちに説明した。

間伐される木は細い広葉樹で、事前にオレンジ色のリボンが巻かれてあった。子どもたちが手に手にノコギリを持って取りつく。直



秋晴れの中、  
まず記念写真



竹ピストル製作



りを頬張り、うどんをすす  
っていた。

2mほどの長さの材木  
に切りそろえた。それ  
を井桁に組み、中に落ち  
葉などをためて堆肥をつくる。  
「今切られた木も無駄ではないん  
だよ。そのうちに腐って微生物が  
分解し、堆肥ができます」とサポーター  
の栄養になります」とサポーター  
が説明した。サポーターが昨年つ  
くった井桁の堆肥溜めに



子供たちを案内した。  
腐った落ち葉を掘り  
返すと、丸々と肥  
えた真っ白いカブ  
トムシの幼虫がぞ  
ろぞろ出てきた。  
「来年ここに来れば、  
カブトムシがいっぱい見つか  
るよ」といわれ、子どもたちは目  
を輝かせていた。

**竹とんぼを飛ばして**

間伐の後は自然観察の時間だ。  
親子はサポーターの案内で森の中  
を散策し、頂上の展望台に登った。  
森から降り、農家レストランで昼  
食。働いて歩いて、みんなおなか  
がペコペコだったらしく、おにぎ

**切った枝を堆積場所へ「よっこら」と**

伐採された木の小枝を落とし、

おながが一段落したところで、  
レストランの駐車場を利用して野  
外の工作教室が始まった。地面に  
ブルーのシートを敷き、テーブル  
がセットされて子どもたちが座り  
込んだ。ドングリ、板、竹ひごな  
どを材料に、サポーターたちの指  
導で竹とんぼ、鳥の巣箱、ヤジロ  
ベエ、風車、ピストルをつくり、  
竹とんぼを飛ばして大喜びだった。  
傍らでは、ヒノキやエゴノキの  
丸太がセットされ、親子でノコギ  
リ引きに挑戦した。ノコギリが挟  
まって動かなくなった女の子に、  
サポーターが「ホレ、頑張れ！頑張  
れ！」と手を添えて、一緒に引いて  
やっていた。別の一角では、ヒノ  
キの太い丸太を立ててチェンソ  
ーによる彫刻の実演。1時間ほど  
でフクロウが完成し、拍手を浴びた。

**ジャンケンに負けて…**

最後はボランティアのお姉さん  
と一緒に子供たちのジャンケン大  
会。賞品はお菓子がいっぱい入っ  
た袋で、勝った子から好きな袋を  
ゲットする。勝てない子が大声で  
泣き出してしまい、お姉さんが「大  
丈夫よ、大丈夫よ」と大きなお菓



ジャンケン大会で  
歓声がとび

背におみやげをいっぱい

子の袋をあげ  
て、和やかな  
笑いを誘った。  
帰りがけ、お母さん向け？にニ  
ンジン、キュウリ、タマネギなど  
地元産野菜の袋詰めがプレゼント  
され、親子大満足の1日だった。  
嵐山町の「共生の森」は、未来  
を担う子供たちに自然の大切さを  
知ってもらう目的で、2008年  
11月から10年計画で続けられてい  
る里山造成事業。最初の4年間、  
ヤマザクラ、ヤマツツジ、エノキ  
など約1000本の苗を植林し、  
その後間伐・下草刈りなどの手入  
れを随時続けている。植林された  
樹木の生育は順調で、元から生え  
ていた高い樹木に囲まれて、日当  
たりのいい場所では高さ3m以上  
に育っていた。